

特色 GP 「教養日本力」 高度化推進プログラム アメリカ合衆国出張報告書

調査者：友常勉

訪問先	アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ市、ロスアンジェルス市 (アメリカ社会学会、サンフランシスコ州立大学、全米日系博物館)
期日	2009年8月9日～16日
目的	<p>今回の出張では、次の2点に関する調査を行った。</p> <p>① アメリカ社会学会における在米アジア人コミュニティ研究の現状</p> <p>② 全米日系博物館およびサンフランシスコ州立大学での調査</p>
調査結果	<p>アメリカ社会学会の年次大会では、コリアン・マイノリティ研究の分科会に参加し、1992年のロス暴動の経験を踏まえて、コリアン・アメリカンのコミュニティが、北米のエスニックコミュニティ間の調停的かつ指導的な役割を果たすことで、エスニック集団の社会的安定化をはかってきた過程についてリサーチした。第二に、1950年代の日本人と日系人の文化運動の交流について、複数の研究者からの事前リサーチをおこなった。</p> <p>サンフランシスコ州立大学では、人文学部のセス・ヤコボヴィッツ准教授に、州立大学における在米アジア人研究の歴史、さらにアメリカにおける日本研究の現状についてヒアリングをおこなった。ヤコボヴィッツ氏は江戸川乱歩や日本のアニメ映画の研究者としても知られている。氏とのあいだでは、今後の継続的な研究交流が期待できる。</p> <p>さらに、1950年代の日本人と日系人との文化運動の交流については、サンフランシスコ州立大学フラトン校図書館で資料調査、三フランシスコの日本人街の視察、ロスアンジェルス全米日系博物館での同様の目的での資料調査をおこなった。調査結果として、1952年に日本版画展が全米70箇所で開催されており、その報告もかねて、「15 Japanese Woodcuts」(ニューヨーク、1952年)という日本版画の版画集が出版されていることがわかった。これについては画像資料を収集してきたので、現在分析中。おって授業や報告論文をもって学内に還元したい。</p>